

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2874003805		
法人名	株式会社ユニマツそよ風		
事業所名	姫路ケアセンターそよ風(フルーツ)		
所在地	兵庫県姫路市神田町4丁目15番地		
自己評価作成日	平成23年9月15日	評価結果市町村受理日	平成24年1月6日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomatationPublic.do?JCD=2874003805&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomatationPublic.do?JCD=2874003805&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成23年10月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人のペースや体調に応じた生活を安心して送っていただけるように、時間を限定してしまわず、起床時間、食事の時間も個別に対応出来る体制作りを行っている。  
毎月、写真と手紙をお送りしている。  
誕生会はその方の誕生日に行っている。

姫路駅から徒歩で約15分で行ける株式会社ユニマツが経営する2ユニット(18人)が共同生活を営んでいるグループホームである。1階はディサービスとなっている。開設6年目を向かえ、管理者も新たな体制で再スタートをしている。本人本位の生活を基本とし朝食時間を定めることは無く自由な時間に食することが出来る。入浴の時間も利用者が自由に入ることが出来るが安全面を考慮し夜の入浴については現状控えている。利用者家族との連絡については必要に応じて電話や写真付のダイレクトメールを送っている。入口のドアが安全面の理由で施錠管理されている等、今後の改善点はあるものの利用者は明るい職員に支援され快適な生活を送っている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および第三者評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に姫路ケアセンタ - そよ風の目標と独自の理念を掲げており朝礼時に唱和している	今年9月に運営法人が替わるもそよ風憲章は変わりなく継承している。また、事業所独自の理念も憲章とともに唱和し実践に繋げている。管理者は個別ケアの中で利用者一人ひとりの普通の生活を大切にしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩、花の水遣り等の時には積極的に声をかけるようにしている。出来るだけ地域の店舗を利用し利用者と一緒に買物に行っている。	周りが道路と工場のため開設5年目で徐々に地域とのつきあいが実感できるようになった。婦人会からの盆踊りの招待では事業所席が設けられ、行事へも地域の人の参加が増えた。	管理者が交代し以前よりつきあいが具体的になってきたがグループホームの地域密着の意義を改めて確認して今以上のつきあいをがでる取り組みを期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見守り訪問員養成研修実習やトライやるウィークの受け入れをし、交流を行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回の割合で会議を開催している。包括支援センタ - からも必ず出席して頂き、サービス向上に向け話し合いを行っている。	地域の自治会長、婦人会長等の参加があり、地域行事へのかかわりや協力依頼等の連携が広がり、事業所サービスの充実に繋がっている。地域包括支援センター職員の専門職としての指導も取り入れている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	研修や勉強会に参加したり、必要に応じ市役所、消防署、保健所等に問い合わせなどを行っている。	保険者の委託業務である校区担当の地域包括支援センター職員が運営推進会議に出席し、情報提供等を中心に連携できている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不穏や不安が見られる時も傍らに付き添い、身体拘束のない介護を行なっている。立地条件による安全確保のため玄関の施錠は行なっているがいつでも自由に出かけられることの説明を行なっている。言葉による拘束にも注意を払っている。	利用者に寄り添う介護を実践し、安全、安心の提供を行っている。しかし、事業所としての計画的な研修ができてなく「身体拘束の具体的な行為」についてより一層の理解を求めたい。	玄関の施錠の認識を正確に理解し、事業所として利用者の尊厳を今一度見つめ、身体拘束をしないケアの理解を職員全員が正確なものにしてほしい。
7	(6)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待のみならず、精神的虐待にも細心の注意を払い取り組んでいる。	グループホーム連絡会や外部研修に参加し「高齢者虐待防止関連法」について理解できている。管理者は「虐待の防止の徹底」を心がけ虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が研修の機会を持ちそれを共有できるようにしている。また、必要とされる利用者がいないか話し合いの場を持っている。	前回の評価から改善計画を立て研修を実施した。現在「成年後見制度」を2名の利用者が利用され職員も制度について理解できている。	事業所は身体拘束、虐待予防、権利擁護や接遇、感染症、緊急対応等の年度での研修計画を作り研修の充実を図ることを期待したい。
9	(8)	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族、利用者に納得がいくまで十分に説明を行ない、正確な情報を伝えている。	契約は事業所センター長か管理者が対応し、家族には利用者本人が認知症であっても入居後の生活支援のため入居前には必ず本人に説明をしてもらうことを求めている。家族等は退去についての質問が多い。	
10	(9)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	4ヶ月に一回家族会を開催し、気兼ねなく意見や要望を話せる関係を築き、又、個別のケア、声かけを行なっている。	管理者は今年1月から従事し家族へのかかわりを相互の連絡で積極的に行っている。また、家族は災害時等の協力を自ら提案するなどお互いの歩み寄りができている。家族会も定期的な開催ができている。	
11	(10)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ユニット会議を各毎月一回行なっている。なるべく出席出来る様シフトを考慮したり、各人が一度は発言できるようにしている。	事業所は利用者の体調や生活リズム等に合わせた食事時間の提供や対応を行っているが、職員は自らの業務時間の調整も提案し実施している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の特徴を把握してそれぞれの得意分野を生かした取り組みが出来るよう配慮している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員に外部研修の機会を設けている。それ以外にも会議の時間内に内部研修が行なわれている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流会や勉強会に参加し、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して利用していただく為、納得されるまで話し合いを行っている。		
16			初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安を受け止め、十分な説明を行い信頼関係を築けるよう努めている。		
17			初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの導入を決める前に主治医、ケアマネを交え必要な支援を本人、家族と話し合っている。		
18			本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活しているものとして、双方が理解し助け合える関係を築けるよう努力している。		
19			本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護記録や介護計画書などによる情報の共有や毎月ご家族様宛に利用者様の近況報告として、毎月手紙に写真を添えて郵送している。共に本人を支援する立場として、お互い相談しあえる関係作りに努力している。		
20	(11)		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が、知人や友人、社会と交流できるよう逢いに来ていただいたり、出かけたりする機会を作っている。	訪問美容以外にパーマ希望の利用者には近所の散髪屋さんに対応してもらえたり、昨年まで秋祭りの屋台見物に出かけていた利用者が体調不良で行けなくなってもビデオで見てもらって支援している。	
21			利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の過ごしやすい環境作りの為に、席の配置を工夫したり、利用者同士だけでの関わりが難しい場面では、職員が間に入るようにしている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしさを考え、ご希望に沿った生活をしていただく。	職員は常に利用者の話を聞く姿勢で、一人ひとりに寄り添い、認知症高齢者のその都度場面の違う話に耳を傾け思いを聞き、職員で共有して介護に活かしている。	
24			これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から生活歴を聴き取り、把握するように努めている。その情報を職員で共有している。		
25			暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床時間を限定せず、利用者様の希望を取り入れながら、心身の状態に合わせ生活を送っていただけるように努めている。		
26	(13)		チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、ご家族の思い等を介護計画に取り入れている。かかわる職員間で話し合いの場を持ち、現状に即した介護計画を作成している。	そよ風グループ独自の様式の計画書を元に「介護援助計画表」を作成し、職員が各利用者を担当し他の職員の協力を得て介護計画作成を行っている。3ヶ月で見直しを行い家族にも説明している。	
27			個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に記入した情報は、口頭で必ず申し送りを行ない、日々の事、長期的なものに反映される。		
28			一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の機能を最大限に活用し、ニーズに応じた支援を行なっている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じて地元根付いた生活していただける人間関係を作り、情報を得て、活用している。		
30	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院からの往診、歯科医の往診をご家族様に納得してもらって受けている。	協力病院が開設当初の遠方の病院から近くの病院へ変更となり、看護師の退職もあり現在は管理者を中心にかかりつけ医からの情報提供や指示などの協力があり連携が深まり適切な受診支援ができています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職が不在の為、主治医に往診時、細かく報告を行ない、確認すべき事があれば、すぐに連絡して指示をいただくようにしている。		
32	(15)	入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者に情報提供を行っている。又、病院関係者や家族とのカンファレンスを行っている。	入院時は事業所での生活情報等の提供を病院に行い、退院時には家族とともに医療ソーシャルワーカー等との調整によって話し合いを持ち支障なく退院できるように対応している。	
33	(16)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と話し合いを十分に行なっている。希望があれば、経口摂取可能な限り支援していけるように体制を整えている。	事業所は利用者が入院等により状況の変化があった時には家族との話し合いによって意向を確認し、医療行為等を必要とせず医師の理解が得られた場合は終末期の対応を行っている。	事業所の重度化や終末期に向けた方針と支援はほぼ方向が定まっているので家族の意向の確認も出来る限り重要事項説明書的な書類の充実で契約時に対応できるように期待したい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故があった場合、対応処置を全職員が行なえるよう指導している。訓練を積むことで、あわてず対応出来るようにしている。		
35	(17)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行なっている。地域にも協力を要請している。非常時の水、食物をストックしている。	年2回の避難訓練を行っている。また災害時には、隣接する工場へ協力を得るために運営推進会議から依頼先を教えられているが対応が遅れている。地域消防団へも同様である。	できるだけ早く隣接する工場や地域消防団への協力を依頼し災害時の地域の協力体制を整えることを期待したい。

自己	者 第	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の人に対する礼儀はもちろん、言葉使いや、一人一人の人を大切に対応するように気を付けている。	認知症高齢者介護の専門職員として「人としての尊厳」を業務で意識し、接遇時や場面による言葉の使い分けができることを意識し実践しつつある。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が、話しやすいと思っていただける雰囲気作りの為に、訴えがあれば、必ず傾聴し、お一人ずつとゆっくり話せる時間を持つようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事の時間、場所等限定せず、状態や状況に応じて対応している。花の世話や洗濯、裁縫や習字等、好きな事を生活に取り入れて生活していただけるようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	誕生日にはヘアアクセサリやクリーム等をプレゼントさせていただき、毎朝一緒に服を選んで着ていただいたりとおしゃれを楽しんでいただくようにしている。		
40	(19)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好きなものをご自分の食べやすい形態にカットして盛り付けをされたり、肉が嫌いな方には魚料理やその方の食べやすいものを提供する工夫を行なっている。	利用者の体調や状態に合わせて食事時間をずらしたり臨機応変な対応を行っている。食事作りは職員主体だが職員はおいしい食事の提供を心がけ、利用者もできることは手伝いともに食事を楽しめるようにしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立に基づいて調理を行ない、バランス良く召し上がっていただけるよう声かけを行なっている。また昼食後にはお一人ずつの水分摂取量の確認を行ない、体調や気温に応じた水分量の確保を促している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアで、歯のない方にはうがい薬を利用いただき、舌磨きを取り入れている。義歯を利用されている方には、外して洗浄されるよう声かけを行ない、毎晩お預かりして、洗浄剤を利用して不潔な状態にならないよう対応している。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の尿意や便意を尊重し、失敗があったとしても落ち込まないよう声かけを行なっている。また、付添いが必要な方の場合でもゆっくりと一人で排泄する時間をもっといただけるようにタイミングを見て対応している。	各ユニットでチェック表による定時誘導対応と利用者の便・尿意にあわせ随時対応し状況によって声かけを行う対応をおこなっているが、基本は自然な排泄の継続の支援としている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の水分摂取で便秘解消を促したり、散歩を日課に取り入れる事で、運動不足にならないように努めている。		
45	(21)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その方の体調気分に合わせ、午前中にも入浴を行なっている。またその方の希望があれば随時入浴していただいている。	利用者があわだしく感じないようにゆっくりとくつろぎ落ち着いて入浴できるように配慮している。冬場は温泉効果のある入浴剤を毎日使い楽しんでもらっている。今後も希望に沿った入浴ができることを目指している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はその方の状況に応じ、自由に休息を取っていただいている。夜間も安心して休んでいただけるよう声かけ、見守り、室温等工夫している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋や薬剤師により確認できている服薬による症状の変化を見逃さず、主治医に報告している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯たたみ、食事の準備等、その方に応じた役割をもっといただいている。花の水やりを役割にし、楽しんでおられる方もいる。		
49	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	園芸センターへの買物や外食等、ご家族様と協力し支援している。地元の美容院にも協力してもらい、送迎をすれば、パーマをかけてもらえるようにしている。(婦人会サークルの参加、見学)	管理者、職員ともに利用者の希望にそって身近な公園への少人数での交替外出や外食等もできるように取り組んでいる。日常的には公民館での婦人サークルの見学や展示の見学も行っている。	利用者の重度化と職員の人手不足のため日常的な外出支援が減少傾向にあるが、管理者、職員ともに利用者の外出による効果を十分に理解できているのでこれからの取り組みに期待したい。



自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	主婦であった方は、お金をもっていないと安心されない方が多い為、ご家族様に理解を得られれば、持っていてほしい。		
51			電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればご家族様に電話したり、かかってきた電話を取り次いだりしている。年賀状や暑中見舞いを書ける方には無理強いをしないよう書いていただいている。		
52	(23)		居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳を設置し誰でも座ったり、横になったりできるようにしている。全ての利用者様がゆったり過ごせるようにしている。ベランダには季節の花植え時期のものを取り入れた献立で季節感を出し、作品の展示などでも季節感を取り入れている。	居間に明るい日がそそぎ明るく静かな環境となっているユニットとテーブル席の配慮を行う事により居心地良く過ごせるように工夫したユニットとなっていた。程よい壁画や飾り物により、落ち着いた環境となっている。	
53			共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー畳を設置し、好みの場所で過ごせるようにしている。廊下にもソファーを設置。ゆっくりと話せるように席の移動も行っている。		
54	(24)		居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具を持って来て使用され、その人らしい居宅になるようにしていただいている。希望に応じて居室に作品や写真を飾っている。	一人ひとりの利用者がそれぞれに自分にあった居室を職員の支援によってレイアウトしていた。使い慣れた家具等の持ち込みも見られ生活観がある。	
55			一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活できるよう家具の設置等工夫している。できることはできるだけ自分でしていただいている。		